

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ヒトツナ大袋教室 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月10日		2026年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されている。	通所支援での日常の様子や保護者からの聞き取り内容も踏まえ、多面的な情報を基にアセスメントを行った上で訪問支援計画を作成している。	職員研修等を通じてアセスメント力の向上を図り、子どもの特性や環境要因をよりの確に捉えた支援計画の作成につなげていく。
2	訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われている。	訪問先施設の保育・教育の実情を尊重しながら、現場で実践しやすい具体的な助言となるよう意識して対応している。	訪問支援員同士での情報共有や振り返りを行い、助言の質や支援方法の向上を図っていく。
3	事業の目的が適切に説明されている。	保護者や訪問先施設に対して、事業の目的や役割について丁寧に説明し、理解を得た上で支援を進めている。	サービス内容や支援の意義がより分かりやすく伝わるよう、説明資料や情報発信の方法について検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制	保育所等訪問支援は、外部機関との連携の中で子どもを環境との相互作用の観点から俯瞰的に捉え、適切な助言を行う専門性が求められる支援である。そのため一定の経験や専門性を有する職員の配置が必要となるが、利用希望に対して対応可能な職員数が十分とは言えない状況である。	個の理解や環境調整に関する研修は月2回実施しており、基礎的な専門性向上の機会は確保されている。今後は保育所等訪問支援に特化した研修内容を整備し、訪問支援に必要なスキルを有する職員の育成を進めるとともに、訪問支援員同士が相互に補完し合いながら多角的な視点で支援を提供できる体制づくりを進めていく。
2	上記理由のため、支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行うというプロセスを訪問支援員間で行うことができていない。	現在、児童発達支援・放課後等デイサービスそれぞれに1名ずつの体制で訪問支援を実施しており、訪問支援員間での役割分担や事前打合せを十分に行った上での支援体制の構築には至っていない。 今年度は作業療法士の入職により専門的視点の向上が見られたが、事業所全体の業務状況から訪問支援への十分な関与が難しい場面もあった。今後は訪問支援に対応できる職員の育成や体制整備を課題として取り組んでいく必要がある。	
3	保護者への情報共有や日程調整、訪問支援計画の説明について、十分に丁寧な対応ができていない場面がある。	日常の通所支援業務を優先して対応していることから、訪問支援に関する保護者への連絡や説明の時間を十分に確保できない場合がある。また、訪問支援員の配置が限られていることもあり、訪問実施の調整や事前説明、訪問後の報告などの対応が後手に回ってしまう場面が見られる。	訪問支援に関する保護者への説明や情報共有の重要性を職員間で再確認するとともに、訪問前後の連絡・説明の手順を整理し、計画説明や訪問内容の共有を行う機会を意識的に設けていく。また、訪問支援の対応可能な職員の育成を進め、業務負担の分散を図ることで、保護者への丁寧な情報提供が行える体制づくりを進めていく。